

横浜市の公民連携の取組み

2014年3月25日
横浜市政策局共創推進室
担当部長 橋本 徹

共創推進室の設置



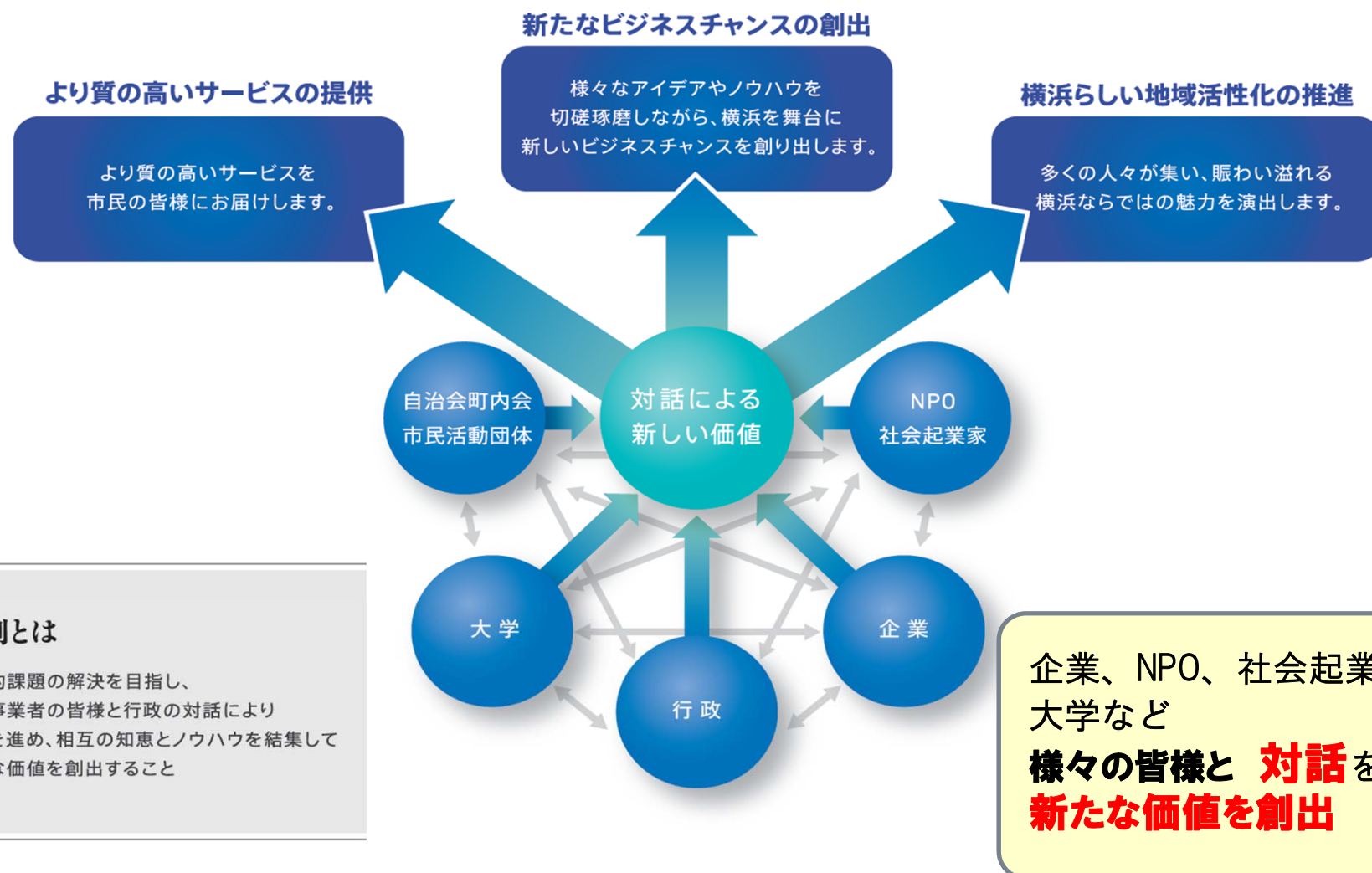
- 様々な公民連携手法※を一括して所管し、
- 民間、行政内部から相談・提案を受け、マッチングを行う
- “公民連携のハブ”の役割を持ち、
- 既存の手法にとらわれず、民間と行政のコミュニケーションを通じて、イノベーションを生み出し 新しい価値を共に創る（共創）ことを目的とした組織



政策局 共創推進室※ 設置

※ PFI、指定管理者制度、広告事業、ネーミングライツ、公有資産の有効活用 等
※設置当時(2008年)の組織名称は“共創推進事業本部”

私たちが目指す「共創」の姿



「対話」の窓口 & 橋渡し 『共創フロント』



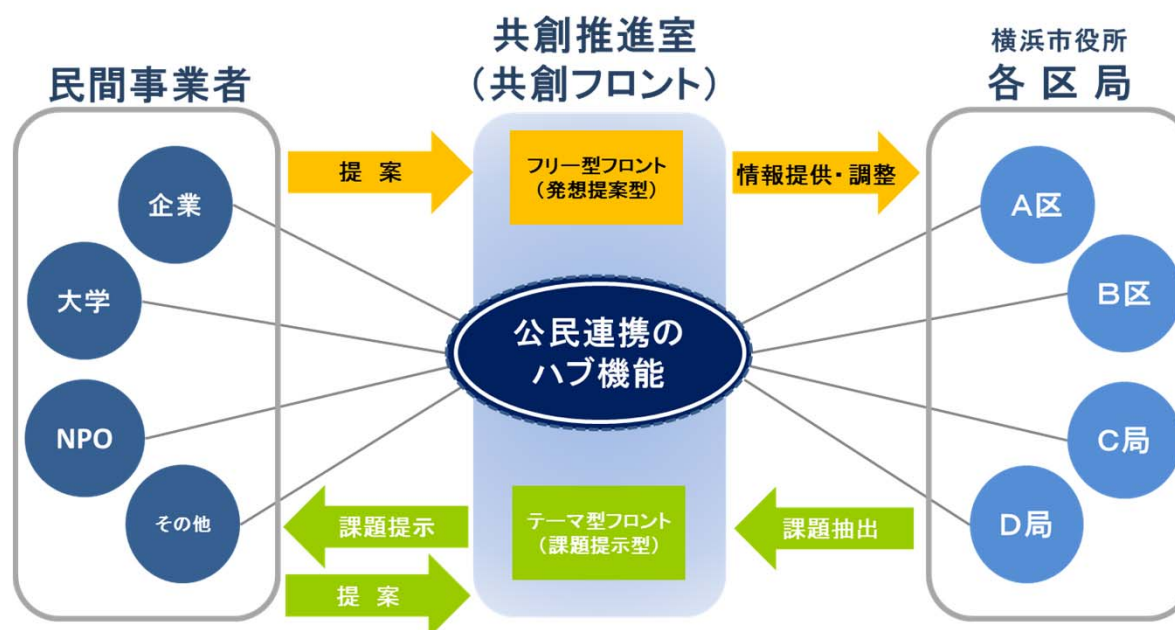
○「共創」を進めるための仕組みとして「**共創フロント**」を設置

○「共創フロント」とは、横浜市と民間の皆様とが互いに対話を進め、横浜市が抱える様々な課題の解決や新たなビジネスチャンスの創出等に取り組むために、

民間の皆様からの相談・提案を受け付ける窓口



○「政策局共創推進室」が、提案の実現化に向け**橋渡し役**となって検討・調整を行う。



提案数は354件

うち146件が実現

(平成26年2月末時点)

共創フロント実現事例の類型



① 包括的な連携

地域の課題解決や活性化、提案者の社会貢献活動向上などを目的に、複数の事業分野での連携を視野に、包括的な連携協定を締結し、継続的な連携のためのプラットフォームを構築するもの。

② 具体的な事業等との連携

提案の内容が、横浜市の施策・事業との関連性が高く、行政や地域の課題解決につながるとともに、提案者のメリットもあることから、具体的な事業等について連携を行うもの。

③ 連携の場の提供

提案の内容が、直接的には市の具体的な施策・事業と関連しないものの、公益性があり、市民サービス向上効果が見込めるとともに、提案者のメリットもあることから、連携のための場（施設、共同研究・実験の場など）を提供するもの。

④ 市が所有する権利・資産等の活用

横浜市の有する権利・資産等（著作権、命名権、所蔵品など）を、提案者のノウハウ等により活用したり製品化するなどの連携を行うことで、行政や地域の課題解決につなげるもの。

⑤ 民間主体の事業等支援

民間主体の事業やイベント等に対して、その内容に行政・地域の課題解決につながるような公益的性質があることから、市が支援（ノウハウ提供や共催・後援等の名義、その他の協力）を行うもの。

①包括的な連携：

様々な分野における連携の可能性を見据えた協定締結



セブン&アイグループ3社との「地域活性化包括連携協定」の締結

(株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)イトーヨーカ堂、(株)そごう・西武

- ・地産地消や食育、安全で安心な地域社会の実現、観光振興、地域環境の保全などの分野において、相互の連携を強化し、横浜における市民サービス向上を目的に締結(H24.6.14)



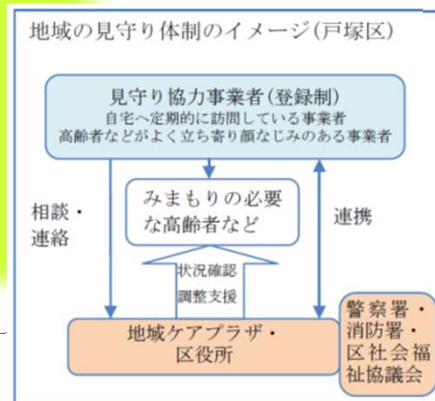
横浜産農産物を活用した 新商品の開発！



横浜産小松菜と紅鮭の醤油バター御飯むすび

横浜産キタアカリの
ポテトサラダサンド

高齢者等地域の見守り事業
への参加や、買物支援など、
地域の安全・安心の担い手に！



区役所と連携し、地域とともに
ごみ減量へ取り組む！



店舗に
「横浜市情報コーナー」
設置！



② 具体的な事業との連携： 映画コンテンツ×行政情報のPR



コクリコ坂から
× 観光マップの作成 など



プリキュア
× 小児救急ダイヤル番号のPR



図書館戦争
× 図書館利用啓発



はなかつぱ
× 風しん・麻しん予防接種PR



コドモ警察
× 自転車盗難予防啓発



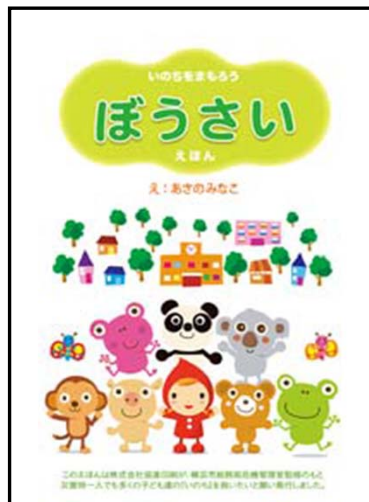
だいじょうぶ3組
× 人権啓発



しわ× 認知症への
理解向上啓発

② 具体的な事業との連携： 防災意識の啓発

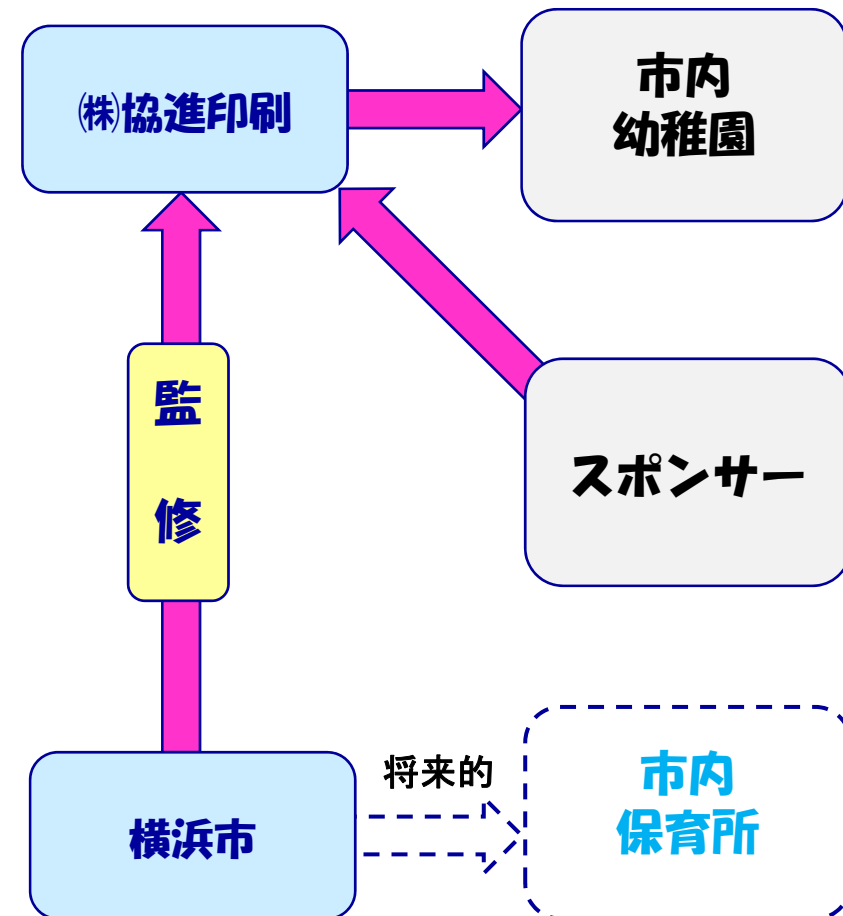
幼児向け防災教材「ぼうさい絵本の共同作成・配布」



(株)協進印刷

幼児向け防災教材「ぼうさいえほん」

- ◆ 幼稚園や家庭の読み聞かせで、災害時に取るべき行動を伝える内容
- ◆ 災害発生時の「自助」行動が、幼児目線でわかるよう、イラストやひらがなで記載



② 具体的な事業との連携： 民間企業と行政で企画したアプリコンテストの開催



社会課題を解決するアプリコンテスト「ヨコハマアップス」



「私たちの暮らしが、もっとこうなったら良いのに・・・」
「子供たちが夢を持てる街を創りたい！」
「こういうものがあれば、きっとみんなの手助けになる。」



市民、NPO、社会起業家、企業などの様々な担い手から、
横浜市での生活を便利で楽しく過ごすためのアイデアや、アイデアを具体化するアプリを募集。

2014年3月27日（木）、表彰式を開催！

③連携の場の提供： 子供向けプログラム×公共施設の空き時間・空間



横浜市が“場”を提供し、複数企業が子育て支援サービスを実施



どにち★ひろば

- 地域ケアプラザ内の1室において、毎週土日に子育て支援プログラムの提供に協力してくれる事業者を「テーマ型共創フロント」を通じて募集。
- 利用者は、費用負担なくプログラムの提供を受けることができる。
- 企業には、企業イメージの向上、市場のニーズ把握、社員の意識向上などのメリットが出ている。
- 横浜市にとっては、無償で企業のノウハウを活かした子育て支援プログラムを市民へ提供できるとともに、地域ケアプラザの利用促進につながっている。



親子で写真撮影



ベビーマッサージ



離乳食セミナー

④市が所有する権利・資産の活用： 公共施設の改修・維持管理に関する連携

地元企業【(株)アメニティ】が支える新横浜駅北口公衆トイレ(ネーミングライツ活用)

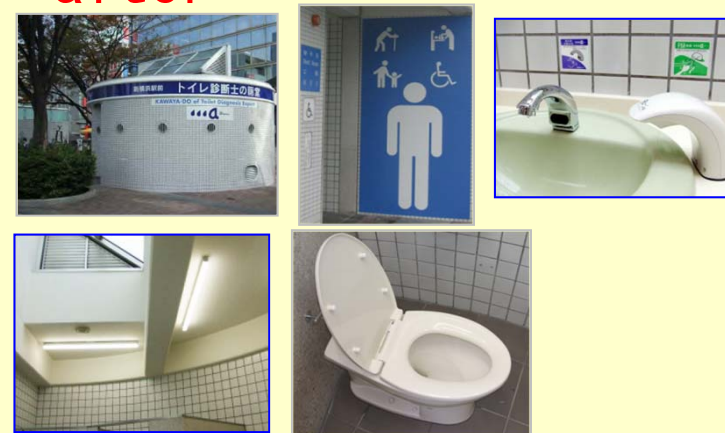


- 地元企業が**設備を提供**することにより、公共施設が更新されるとともに、**役務(維持管理)**を提供することにより3年間の維持管理が実施。
- 横浜市にとっては、約500万円相当にあたる設備設置・役務の提供を受けることができた。
- 地元企業にとっては、社員のモチベーションが高まるとともに、多くのメディアに取り上げられ、大きな広告効果があった。

before



after



“共創”を阻むのは・・・



□ 共創の拡散

“共創”をもっといろいろな人に知ってもらいたい

□ 共創の場づくり

立場を離れて、いろんなこと語り合いたい

□ 共創への参画

いろいろな人たちに“共創”の場に参加してもらいたい

□ 共創のチームづくり

イノベーションをおこす“共創”チームを創りたい

□ 共創のコミュニティ化

チーム同士の輪を広げて、ムーブメントを起こしたい